

透析アミロイドーシスの診断基準試案および 腎生検標本におけるアミロイド量と臨床データの関連

研究分担者：新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部 西 慎一

1)透析アミロイド症の診断基準試案

透析アミロイド症の診断基準案					
	主要症状	診断基準			
1)	手根管症候群	疑い例			
2)	弾撥指	1) 主要症状1)~5)のうち、2項目以上がみられるもの			
3)	破壊性脊椎関節症	2) 主要症状1)~8)のうちの一つと病理所見1)を確認したもの			
	頸椎C4, C5, C6に好発する。骨X線上 椎間腔狭小化と骨破壊(erosion)がみられ、 椎体縁棘上骨増殖性反応が無いか弱い	確実例			
4)	上記症状以外の関節症状	1) 疑い例1)のうち病理所見1)または2)を確認したもの 2) 疑い例2)のうち病理所見2)を確認したもの			
	肩関節痛、股・膝関節痛など 正座や和式トイレ不能	病理所見			
5)	骨嚢胞、関節周囲嚢腫 骨X線透亮像	1) 上記主要症状の病変部位より採取した組織のCongo-red染色が陽性。あるいは電顕にてアミロイド細線維を認め、アミロイド沈着を確認する。			
6)	骨折	2) 免疫組織化学的にアミロイド蛋白が $\beta 2$ microglobulinに一致する			
7)	虚血性胃腸炎				
8)	その他				
	尿路結石、皮下腫瘤				

2)腎生検標本におけるアミロイド量と臨床データの関連

対象症例は30例(男性4例、女性26例)、年齢は 57.0 ± 11.7 歳で生検時の腎機能検査を含めた血液・生化学的パラメーターおよび尿所見と腎生検組織のアミロイド沈着面積を比較検討した。

アミロイド沈着面積は血清クレアチニン(Cr)(相関係数:0.65, $r=0.0001$)
 クレアチニンクリアランス(Ccr)(相関係数:-0.44, $r=0.018$)
 血清アルブミン(相関係数:-0.38, $r=0.03$)
 血清IgG(相関係数:0.38, $r=0.04$)

と相関を認めた。

性、年齢補正を行ってもCr, Ccrはアミロイド沈着量と相関を認めた。

解 説

1)透析アミロイド症の診断基準案

上記の診断基準の臨床的有用性を透析施設3施設60名の患者を対象として検討している。臨床項目、画像項目、病理項目陽性頻度などから診断基準案の修正も考慮する。

2)腎生検標本におけるアミロイド量と臨床データの関連

アミロイド沈着面積は血清クレアチニン(Cr)、クレアチニンクリアランス(Ccr)、血清アルブミン、血清IgGと有意に相関をしていた。

尿蛋白との相関を認めなかったが、蛋白尿は、薬剤やRA自体による腎組織の膜性変化などの影響もあるため、アミロイド沈着の指標としては不適切であると考えられた。

性、年齢補正を行ってもCr, Ccrはアミロイド沈着量と相関を認めた。